

# 令和元年度 総会

日時：令和元年 6月21日(金)15:00~20:00

会場：宇都宮東武ホテルグランデ



午後3時から総会を開催。その後、平成30年度表彰、令和元年度講演会及び意見交換会を開催した。

## 第1部 令和元年度総会（出席者数112名）

### 【小林筆頭代表理事 挨拶要旨】

政府発表の5月の月例経済報告では、日本の景気について「景気は輸出や生産に弱さが続いているものの、緩やかに回復している。」と判断しているが、マクロの視点からすると、我々企業を取り巻く環境は日々目まぐるしく変化していて、予断を許さない状況にある。米中の貿易摩擦問題や、10月に予定されている消費増税、また、世界ではAIやIoTに代表される第4次産業革命やデジタル革命が予想を大きく上回る量と速さで進展しつつあり、栃木県経済にも看過できない大きなうねりが押し寄せてきている。

そのような状況下、当会の大きな柱である委員会活動については、平成29・30年度は5つの提言書がまとまった。当会の歴史を振り返っても前例がないほど近年の委員会活動は活発化している。先月、その内の4つの提言書を福田知事に提出したが、今後の栃木県経

済の発展において極めて重要なものであり、様々な切り口から時流を捉えた質の高いものが出来上がったと思っている。

今年度は、元号も平成から令和に変わり、当会の活動の柱である委員会・研究会活動においても、新たな体制のもとスタートした。どの委員会のテーマをみても、郷土「栃木県」の発展と活力ある産業界の醸成に資するためには、必要不可欠なものばかりで、多くの会員の皆様に積極的に活動に参画いただき、熱い議論を展開していただきたい。



### 【審議等】

議長には、小林筆頭代表理事が選出された。次に、出席者数の報告があり、今回の総会が成立した旨の報告がなされた。

議事の審議に入り、第1号議案「平成30年度事業報告・決算について」、第2号議案「役員を選任について」は、原案通り可決された。その後、報告事項として(1)「令和元年度事業計画・収支予算について」(2)「幹事の選任について」が報告され、総会は閉会した。

総会終了後、第2回理事会が開催され、中津筆頭代表理事、藤井代表理事、五家専務理事の3人が選任された。

また、小林前筆頭代表理事を名誉理事に委嘱し、特別功労者として顕彰することとした。



## 第2部 平成30年度表彰

中津表彰選考委員長から受彰者及び受彰理由の発表があり、引き続き小林名誉理事から表彰状、副賞が授与された。

受彰者及び受彰理由は以下のとおり。

### 【優秀経営者賞】

株式会社 オーベルジュ

代表取締役 音羽 和紀 氏

故郷の宇都宮にてレストラン「オーベルジュ」を開店以来、国内外の観光客の誘客促進や栃木県の知名度向上に貢献。また、「子供達の食」をテーマにした食育事業や、県内大学生との地域の産物を使った料理の開発等を通し、地域の食環境や地産地消の普及のために活動している。栃木県の食や観光の活性化への尽力、ブランド力向上に大きく貢献している点が評価された。

### 【優秀起業家賞】

株式会社 和商コーポレーション

代表取締役 丸山 修一 氏

昭和59年の創業以来、持ち前の行動力を武器に販路を拡大。宇都宮餃子のブランディングにも大きく貢献すると同時に社内の従業員教育や働きやすい職場づくりを進めるため外部からの専門の講師を招く等して、熱心に取り組んでいる。更なる成長のために積極的に新商品開発にも取り組んでおり、創業当初の起業家精神と変わらない熱量を持って営業している点と地元宇都宮への貢献度が高く評価された。

### 【社会貢献活動賞】

認定特定非営利活動法人

サバイバルネット・ライフ

設立から20年以上に渡り、DVや虐待など人権被害を受けた女性に対し、心身の健康を取り戻すための自立支援や就労支援を行っている。養育放棄家庭やひとり親家庭の児童に対して食事や学習の場を提供する等、女性や子どもの人権を守り、男女共同参画社会の実現と福祉増進のための啓発や事業を行い、誰もが健康で安心して生きていくための地域づくりに大きく貢献している点が評価された。

### 【美しいまちづくり賞】

小砂village協議会

那珂川町の小砂地区は、県内で唯一、NPO法人「日本で最も美しい村」連合に認定されたが、その地に平成24年に設立された同会は、小砂地域の自然や景観、文化等の地域資源の保存や発展に尽力している。里山景観維持活動をはじめとする活動を通して、小砂ブランドの構築及び地元PRに大きく貢献している点が評価された。



## 第3部 令和元年度講演会

講師、演題は以下のとおり。

講師：医師・作家 鎌田 實 氏

演題：「がんばらない」けど「あきらめない」  
～生きることの意味～

(講演詳細は別項にて)

# 令和元年度 第1回 講演会



講師：鎌田 實 氏

医師・作家

演題：「がんばらない」けど「あきらめない」  
～生きることの意味～

## 【経歴】

1948年東京生まれ。東京医科歯科大学医学部卒業。39年間、医師として地域医療に携わり、そのかわら、チェルノブイリ、イラク、東日本大震災の被災地支援に取り組む。

2009年ベスト・ファーザーイエローリボン賞（学術・文化部門）受賞。2011年日本放送協会放送文化賞受賞。

ベストセラー「がんばらない」をはじめ、「アハメドくんのいのちのリレー」、「がまんしないでいい」など著書多数。現在、諏訪中央病院名誉院長。

日 時：令和元年 6月21日(金)17:00～18:30  
会 場：(株)宇都宮東武ホテルグランデ 4階「松柏」  
参加者：220名

## 【生い立ち】

僕は貧乏でお金がなかった家で育ちましたので、お金の大切さというのはよく分かっているつもりです。お金がないといろんなことができません。

子供の頃、母が心臓の病気で、父は青森出身で小学校しか出ていません。稼ぐ力があるわけではなくて、父は女房の入院費を稼ぐために精いっぱい働いていました。

僕を生んでくれた父と母は、僕を育てられず、捨てられました。父と母になってくれた人が貧乏にも関わらず拾ってくれました。貧乏の中で生活してきたので、お金の大切さはよく分かっていました。

## 【赤字病院からの脱却】

僕は39歳で長野県の公立病院、諏訪中央病院の院長になりました。今360床ありますが、僕が四十数年前に、東京医科歯科大学の医学部を卒業して、諏訪中央病院へ来た時はまだ、60床ぐらいの小さな病院で、医者がいなくて困っていて、潰れそうでした。累積赤字が4

億円、今の4億円とはちょっと違って、かなり小さな病院にとっては大きく、「潰したほうがいいんじゃないか」、公立病院でありながら、議会で議論されるぐらいの病院でした。

赤字があると新しいことができない。患者が困っている、地域の方が困っているのが見えてきました。これをやってあげればいいなと思ったけど、累積赤字を4億円も抱えておいて、何をやろうとしているのかというような、非常に厳しい目があって辛い思いをしました。

幸いな事に16年間、経営の責任を取った間は一度も赤字になったことはありません。それは、時代もまだ少し良かったこともあるし、自分が貧乏の中で生き抜くためには相手の身になるっていうことの大切さを子供の頃教えてもらいました。親父は夜中まで入院費を稼ぐために働いたので、近所のおばちゃんの家に行って、ご飯を食べさせてもらっていました。テレビがなかったので、テレビ見せてもらいに行くのですが、気に入られると「ご飯食べていきな」と言われるようになってきました。そこで培われた技術というか、人の家に入り込むのはすごくうまくなりました。

長野県に来て、農家にあがり込んで一緒にご飯を食べたのは医者で僕ぐらいです。内科

医として赴任した時、事務長が「先生家に飯食いに来ないか」って言うてくれたので、行ってみました。事務長はうれしくて、自分の家に、今度東京から来た医者をご飯食べに来ると、隣近所に声掛けしたみたいです。田舎なので、今度来た医者の顔がどんな顔をしているのか、皆、好奇心旺盛で、酒や一品料理を持って集まり、酒盛りになりました。どうも鎌田先生は飯に誘うと来てくれるぞ、何を出しても美味いって言うらしいという噂が立ちました。

不健康だった長野県、平均寿命が異常に短く、脳卒中死亡率第2位だった長野県があった間に健康県になりました。その要素は一緒にご飯を食べて、何か分かり合えた事です。一緒に酒を飲んだ人達が声を掛けてくれ、健康づくりで公民館に人が集まらなかった時代に、公民館に入りきれないぐらい人が来るようになりました。それから一気に健康県、長野になっていきました。理や論も大事だけど、情というか、人間が動いてくれるには情がすごく大事だと思いました。

#### 【暖かい病院】

39歳で院長になったとき、副院長は60歳、62歳の部長がいました。その先生達が気持ちよく働いてくれなければ、成果は上がりにくいですよ。責任者として金を儲けたい。けど、医者の場合、どこにでも行けるので、「儲けようよ」なんて言ったら、いや、儲けるなら開業しますとか、自分で病院やりますとかという話になってしまうので、「儲けよう」と言うのは全く禁句でした。どこの病院よりも暖かくて、患者さんから信頼される病院にしよう。これは割合、多くの医師が納得をしてくれました。それを繰り返しました。とにかく東京の病院に勝てるわけがないけど、暖かい病院だったら勝てるのではないかと。喉から手が出るほど言いたかったのは、やっぱり黒字じゃなければ駄目だって。

結局、暖かい病院というのが人材を集める大きな要素になりました。今も多分、僕たちの諏訪中央病院は日本で有数の田舎の病院です。

人口5万5千人の町ですが、日本中の大学医学部から医師が集まってきます。田舎の病院ですから、救急医療も高度医療も全然大したことない。でも、暖かいことが多分、選択の魅力になっていると思っています。

#### 【3つのフレイル】

フレイルは三つあります。筋肉のフレイル、口腔フレイル、社会的フレイルです。日本人の死亡の第3位は肺炎です。高齢者の肺炎のほとんどは誤嚥性肺炎。口が原因です。口から雑菌が肺に行くと、肺炎を起こして亡くなっています。だから、口腔フレイル、口を強化することが必要です。

最もいけないのが社会的フレイルだと言われています。筋肉フレイル、口腔フレイル、社会的フレイルにならないようにしていくことが将来、介護保険のお世話にならないで済む上でものすごく大事だということを入念に入れておいてください。

#### 【野菜と運動で慢性病を予防】

長野県は野菜摂取量が日本一です。栃木県は農村県ですが野菜摂取量はそんなに高くないです。厚生労働省は野菜摂取量を350g食べましょうと言っていますが、都道府県別で食べているのは長野県だけです。一時期、野菜摂取量第2位になった島根県は心筋梗塞が日本一少なくなりました。

基本的に、なぜ野菜が体にいいのかというと、認知症や脳卒中、心筋梗塞にならないため。これはみんな、慢性炎症です。認知症や動脈硬化も慢性炎症です。慢性炎症は気が付かない、分からないうちに進行していきます。がん、認知症、動脈硬化、脳卒中、心筋梗塞、みんな慢性炎症です。

糖尿病がいけないと言われるのは、血糖値が高くなること。血糖値が高くなると慢性炎症が起きやすいからです。だから、血糖値を上げないためには野菜を摂ることです。答えはものすごくシンプルです。野菜と運動に気を付けてさえいれば動脈硬化、認知症、がんにならない。長野県で僕が野菜をたくさん食べる運

動をして、具だくさん味噌汁を作りました。

### 【減 塩】

塩分は血圧を間違いなく上げます。「塩を摂っても大丈夫だ」とか言う人がいますが間違いです。変な人がいて、塩をいっぱい食べているけど、長生きしたとか、煙草を吸っているけど100歳まで生きたとか。たまにはいますが、塩は明らかに体に良くないです。塩を減らしていけば、明らかに高血圧が減るし、心筋梗塞や脳卒中が減る。認知症も減ります。

塩分の摂取量と胃がんの発生率はパラレルです。だから、胃がんのリスクを減らそうと思ったら、塩分を減らすことです。

### 【タンパク質の摂取】

僕たちは古い食文化もあって、寒天とかしみ豆腐、高野豆腐、粉豆腐はタンパク質の塊です。日本人はタンパク質がほとんど足りていません。厚生労働省は1日のタンパク質の目標摂取量を少なく見積もって1日50gとしています。元気に生活したいと思ったら、60gから70gを摂る必要があります。60歳で70gのタンパク質を食べている日本人はものすごく少ないですよ。ステーキハウスに行って、200gのステーキを食べても、タンパク質は40gです。60g摂るにはよほど注意して、納豆や豆腐、チーズ、ヨーグルトを食べないとタンパク質は間に合いません。結局、筋肉が落ちていきます。20代ぐらいがピークで徐々に筋肉が落ちていきます。筋肉が落ちていくと同時に、チャレンジングホルモンのテストステロンがものすごく減っていきます。これはビジネスのリーダーにとっても致命傷です。

### 【野菜の摂り方】

野菜をしっかり摂る。朝、僕は家にいるときには野菜ジュースを絶対飲みます。1杯飲むと220gです。350gを目標にしていますので、朝、野菜ジュースで220g摂るとあとは簡単です。お昼にサラダか煮物を、朝と夜に野菜を入れればもう、350gを超えていきます。

野菜ジュースを飲むか、あるいは、具だくさん味噌汁です。がん・動脈硬化・認知症、み

んな慢性炎症で、野菜の中の抗酸化力、この色素が慢性炎症を防ぎます。だから、野菜を摂るのに成功した人たちは健康寿命になります。

若い人たちが野菜を食べなくなってきていますが、すごく致命傷になってきます。やっぱり野菜とタンパク質には意識をしてもらいたい。

### 【生きがいを持つことが大切】

長野県は僕が44年前に赴任してあっという間に平均寿命が日本一になりました。東京の大学の教授たちが集まって調査団を作り、何が統計的に健康長寿に一番影響を与えたのか調べていきました。驚くことに減塩や野菜かと思っていたら、そうでなく、「生きがい」でした。

長野県は高齢者の就業率が日本で、段々畑で農業を行っています。高齢者の人達が働ける場を作っていることが、結局は健康にも結び付いていきます。つまり、働く事です。女の人はボランティア、結構気概があります。男の人は少し稼げている方が生きがいに繋がっていきます。もちろん、趣味もいいです。何でもいから、とにかく生きがいを持ち続ける事はとても大事です。

### 【誰かのために生きる】

僕は『1%の力』という本を書いています。基本的には資本主義社会で僕たちは生きていますから、競争は自分の為にも良いと思います。だけど、みんな、1%は誰かのためにとと思ったら、もう少し家庭の中も、地域の中も、あるいは会社の空気も変わるんじゃないかと思えます。1%ですよ。99%儲けようと思っても1%だけ、誰かのためと思うことが大事なんじゃないか。



### 【鎌田の健康5カ条】

野菜、タンパク質、スクワット、ウォーキ

ング、生き方です。生き方を1%、せめて1%誰かのために思い続けることがとても大事です。

### 【貯金より貯筋】

例えば、女の人が99歳まで生きるにしても、その最期の時まで、月に1回ぐらい食堂行って、好きなもの食べられるようになっているかどうか。1カ月に1回でいいから、日帰り温泉に行ける体力を持ち続けるかどうか。貯金より貯筋だよ。それは経済同友会の方にとってとても大事なことです。

### 【『鎌田式「スクワット」と「かかと落とし」】

なぜスクワットにこだわるかということ、運動することによって血圧や血糖値が下がります。これは世界中の内科医が認めてきています。

運動して筋肉のある人の方が、がんや、認知症、鬱が少ない。はじめは偶然じゃないかと思っていたのですが、マイオカインという筋肉作動性物質っていうのが出ていることが分かりました。

マイオカインっていう筋肉作動性物質が太ももから出ています。太ももが一番筋肉の体積量が多いので、ここがしっかりしていれば、90歳になっても、95歳になっても歩けます、宇都宮餃子を食べに来続けられます。お土産で買ってきて食べるよりは絶対食堂行って食べたほうがいかに決まっていますから。

女の人で99歳になっても生き続けられる体力を持つのは究極的には太ももです。皮下脂肪を筋肉に変えていく。絶対女の人がやっても間違いなく太りません。筋肉が増えてくると動くのがすごく楽になっていきます。マイオカインっていう、夢の万能物質。ホルモンとか、あるいは若返りホルモンとも言います。血糖値や血圧も下がりますので、認知症も減ります。

介護保険のお世話になる12.5%は転倒です。転倒の殆どは家の中のじゅうたんか畳のへりです。畳のへりは1ミリです。あの1ミリで引っかかります。僕たち年を取ると無意識のうちに足がドロップしだします。若い人はつまりきません。

かかと落としの中でつま先を上げる時に、ふくらはぎを鍛えます。ふくらはぎは第2の心臓と言われています。毛細血管が中年ぐらいから途絶えていきます。ゴースト化して、幽霊のようになることによって脳にも変化が起きてきて、認知症や小さな脳梗塞が起きてきます。結局、ふくらはぎと関係しています。3年ぐらい前にふくらはぎを揉めば健康になれる。あれは、一理ありますが、ふくらはぎに血栓があり、揉むと肺梗塞を起こす、エコノミー症候群の危険が多と言われています。だから、かかと落としです。オステオカルシンっていう物質が出ているのではないかとされています。

先程のマイオカインみたいな物質で血糖値が下がります。がんも認知症も鬱も減ってきます。アディポネクチンっていう物質は、ホルモンが出るたびにメタボが改善してきます。僕のウエストが9cm縮まり、体重が9kg落ちたのもアディポネクチンの成分です。

鎌田式スクワットは、5回を1セットで、1日3セット行うことで、マイオカインがものすごく出てきて、メタボも解消し、血圧や血糖値が下がってきます。次にかかと落とし。これを1日10回3セット。みんなの意識を変えることです。野菜をしっかり食べて、運動をする。意識を変えることは、やはり企業のリーダーの人が変わって、社員が変わり出して、地域が変わり出します。俺たちには関係ないと言わないように、みんなで一緒にやり出すことがとても大事だと思う。

僕は生きている上ではへこたれないっていうことはすごく大事なことだというふうに思って生きてきました。

僕たちは1回だけの命を生きています。だから、精一杯、分かる範囲で努力して、それを子や孫たちにバトンタッチしていく、そして、地域へ広げることです。今日は、令和元年度総会に、大事な記念のときに呼んで頂き精いっぱいお話をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。



講師：関口 和一 氏

日本経済新聞社 編集委員

【経歴】

1982年一橋大学法学部卒、日本経済新聞社入社。88-89年フルブライト研究員として米ハーバード大学留学。89年英文日経キャップ。90-94年ワシントン支局特派員。産業部電機担当キャップを経て96年より編集委員。2000年から15年間、論説委員として情報通信分野の社説を執筆。2006年より法政大学大学院客員教授、08年より国際大学グローコム客員教授、15年より東京大学大学院客員教授。09-12年NHK国際放送ニュースコメンテーター。12-13年BSジャパン『NIKKEI×BS Live 7PM』メインキャスター。早稲田大学、明治大学の非常勤講師なども兼務する。著書に『パソコン革命の旗手たち』（日本経済新聞社）、『情報探索術』（同）、共著に『未来を創る情報通信政策』（N T T出版）、『日本の未来について話そう』（小学館）など。

日 時：平成31年3月13日(水) 8：00～9：30  
会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間  
参加者：69名

【講演要旨】

2008年にスマートフォン（スマホ）が日本に登場し、この10年で生活に欠かせないものになりました。当社の『日経電子版』もスマホがなければ成り立たなかったビジネスです。

本日は、デジタル技術が及ぼしている大きな影響について、考えていきたいと思います。

1. 2018年のIT分野の主なニュース

- ①トヨタとソフトバンクが提携
- ②楽天とKDDIが業務提携
- ③ソフトバンクで通信障害
- ④ファーウェイCFOがカナダで逮捕
- ⑤フェイスブックで情報流出
- ⑥EUがグーグルに制裁金
- ⑦EUで一般データ保護規則が施行
- ⑧コインチェックで仮想通貨が流出
- ⑨菅官房長官「携帯料金4割高い」発言
- ⑩総務省が楽天の携帯参入を許可
- ⑪電子決算市場にペイペイが参入
- ⑫ソフトバンクが東証に上場
- ⑬4K8Kの実用放送スタート
- ⑭準天頂衛星「みちびき」が本格サービス開始
- ⑮改正マイナンバー法が施行
- ⑯海賊版サイトにブロッキング
- ⑰メルカリが東証マザーズ上場
- ⑱改正銀行法でオープンAPI義務化

- ⑲東芝がPC事業をシャープに売却
  - ⑳富士通がPC事業をレノボと統合
2. デジタル化に伴う5つのトレンド

(1) 系列や競合を超えた連携が加速

昨年10月、トヨタ自動車(株)とソフトバンク(株)が、新しいモビリティサービスの構築に向けて共同出資会社を設立すると発表しました。

自動車産業は今、大変革期を迎えています。Connected（つながる）、Autonomous（自律走行）、Shared（共有）、Electric（電動）の頭文字「CASE」がキーワードで、開発・生産・販売等、車のデジタル化への対応が必要となっています。

その要因に、ライドシェアリングやカーシェアリング等の世界的な普及があります。車の新技術と利用形態の変化により、配車サービスを行う企業等が主たる購入者になるため、両社が連携することになったのです。

楽天とKDDIは、2019年10月から携帯電話事業に参入する楽天がKDDIの基地局を借り、KDDIが楽天のeコマースのインフラを借りる形で業務提携をしました。将来的にはライバルとなる企業が手を組むというのも、デジタル時代の新たな動きだといえるでしょう。

(2) サイバー攻撃や情報流出が大きな課題に

ソフトバンクの長時間にわたる通信障害、Facebookの個人情報流出、コイ

ンチェック事件の仮想通貨「NEM」の不正流出等は、いずれもシステムの脆弱性により起こりました。世界経済フォーラム（WEF）が出したレポート「グローバルリスクの発生の可能性と影響」を見ると、サイバー攻撃とデータの流出・窃盗が大きな要因となっています。

### (3) デジタル分野を巡る国家間の対立

中国の華為技術（ファーウェイ）のCFOがカナダで逮捕されましたが、現在、特に米国と中国の間で大きなハイテク摩擦が起きています。ファーウェイの製品にバックドアが仕掛けられていて、そこから情報が抜き取られると米国政府が発表しましたが、ファーウェイが急激に成長したことに対する脅威から出たものだと思います。

国家間でもデジタルの問題が大きな課題となっており、米国のGoogleが欧州の国民の個人情報を不当に活用したとして欧州委員会は日本円にして5,700億円の制裁金を科すなど、国家間の技術を巡る対立が、今後ますます熾烈化していくのではないかと考えています。

### (4) 新しい情報通信インフラの登場

菅官房長官が、携帯料金について「4割程度下げる余地がある」と発言しましたが、これは、今年秋に予定される消費増税を携帯料金の値下げで緩和させようという狙いだといえます。楽天を新規参入させることで競争を促し、携帯各社の通信料金が下がることを期待したものです。また、今年の秋には、第5世代移動通信システム（5G）のプレサービスが開始されます。5Gになると、LTEに比べ100倍のスピードでダウンロードができるようになります。また、low latency（低遅延）となり、遅延が1ms（1/1,000秒）とほぼリアルタイムで届くよ



うになるため、繊細なコントロールが必要となる分野（自動運転車や医療、建設等）でも活用が可能になります。さらに、電気・ガス等のインフラをスマートメーターにすることで、使用料の計測等を遠隔操作で行うことが可能になります。

4K放送・8K放送が昨年12月に始まりました。8Kのような超高精細な映像が出たことで、裸眼で3D映像を見ているかのような立体視が行えるようになりました。AR（拡張現実）やVR（仮想現実）も話題になっています。VRは、専用のゴーグル等を使うことで、コンピューターで作った世界に、自分がいるかのような体験ができます。このような超高精細な技術により、新しいサービスやコンテンツ等の事業が出てくると考えられます。

昨年11月、準天頂衛星『みちびき』の衛星測位システムが本格稼働しました。高精度な衛星測位により、誤差数cmでの測位が可能となるため、建設機械や農業機械などでの利用が期待されています。昨年放送された『下町ロケット』に㈱クボタの自動運転トラクターが出ていましたが、今後、『みちびき』により、農業にも大きな革命が起これると思います。

車は、EV・FCV化や自動運転等、次世代自動車の開発競争が加速しています。また、世界各国が有人ドローンの開発に力を入れており、空飛ぶクルマの時代が間近になってきています。モビリティの世界でも、デジタル革新がどんどん起きています。

### (5) 新たなフィンテック技術の広がり

電子マネーのブームはこれまでに3回ありました。最初のブームは、米国のcybercashや英国のMondex等でした。2回目は、日本がリードした「おサイフケータイ」です。3回目の今回は、QRコードを使った決済で中国がリードしています。ただ、QRコードについては、セキュリティの弱点による危険性やルールの整備等が課題となっているため、信頼性の高い日本の電子チップを使った仕組みを広める必要があるのではないかと考えています。

中国の滴滴出行（ディディチューション）等の配車サービスは、個人情報を事前登

録してアプリから配車手配をすると、クレジットカード決済となり、乗車後の手続きが必要ありません。決済とサービスの一体化によりデータが蓄積され、それが今後のフィンテックに大きな変化をもたらすと思います。

### 3. プラットフォーマーの台頭と逆転する企業価値

中国のモバイル決済が急速に普及したのは、2014年頃から金融ベンチャーへの投資が増えているからです。それを牽引しているのが、Alibaba Groupの創業者、ジャック・マーです。彼は「時代はIT (Information Technology) からDT (Data Technology) に移っている」と言っています。このデジタル技術によるDT革命は「Digital Transformation」と言うこともできます。

時価総額ランキングの上位企業を見ると、かつては金融やエネルギー等の企業でしたが、現在は、米国のMicrosoftやGAF A、中国のBAT等のプラットフォーマーが躍進しています。投資家が新興企業の成長性を見込んでいるため株価が上昇しているからで、これが今のDT革命を数字的に見たときの結果だと思えます。

2016年のWEF年次総会で「第4次産業革命 (The Fourth Industrial Revolution)」という言葉が初めて示されました。Industry 4.0とは若干意味が違い、第4次産業革命は、AI・ビッグデータ・IoTの活用により起こる革新を言います。

その結果起きているのが、ソーシャル・エコノミーやシェアリング・エコノミーです。

ソーシャル・エコノミーは、企業に対する見方や評価が、社会的な価値の拡大を踏まえたもの変わってきています。

シェアリング・エコノミーでは、移動・施設・物流・場所等を多くの人と共有する動きが広がっています。

### 4. 第4次産業革命と「シンギュラリティ」の到来

米国の未来学者レイ・カーツワイル博士が、著書『The Singularity Is Near』で、コンピューターテクノロジーが指数関数的に進化を遂げた結果、人間の頭脳を上回るという「シンギュラリティ (技術的特異点)」が、2045年頃に到来すると予測して話題になりました。

このような技術革新により心配されるのが雇用への影響です。米マサチューセツ

工科大学 (MIT) の研究者、エリック・ブリニョルフソン氏とアンドリュー・マカフィー氏が、著書『機械との競争』(翻訳は日経BP社出版)の中で、技術の進化によって、人間はコンピューターに仕事を奪われると予測して話題になりました。また、英オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授は野村総合研究所との共同研究で、日本の労働人口の49%がAIやロボット等で代替可能となると発表しました。情報の蓄積や処理では人よりAIの方が優れています。今後の仕事は、AIを使いながら、人にしかできない仕事をするように変わっていくと思います。

デジタル革命を勝ち抜く競争力を得るために、ビジネスモデルや業界の再定義が海外では既に始まっています。これは、企業のデータ資産がどれだけ差別化が図られているかが、競争上極めて重要になるからです。



### 5. IoT革命にかける仏マクロン政権

現在、フランスではマクロン氏が大統領を務めています。前政権下で経済・産業・デジタル担当相を務めた時からの取組みである政府のスタートアップ企業支援策「La French Tech」が評価されています。企業支援の他、海外の優秀な人材を招き入れて育成もしています。しかも、フランスには数学者がたくさんいるので、優秀なAI技術者が輩出されています。ITで世界をリードする米国に対し、データ技術に基づくIoTの分野で世界をリードしようという戦略です。

### 6. 日本に求められる「DT (データテクノロジー) 革命」

AIが性能を発揮するためには、IoTで「データを貯めこむ」ことが重要ですが、日本は世界に比べ、その対応が遅れています。

1994年以降のIT投資額の推移をみても、

日本は米国の1/3しかなく、しかも既存システムのメンテナンスに大半が使われており、新しい製品やサービスの開発等に使われていません。また、ビッグデータの時代にデータドリブンの発想で事業を遂行していくには、データ・サイエンティスト等のスキルを持った人材が必要になりますが、日本はその人材の不足が指摘されています。変革のためには、経営者の意識改革とデータをもとに意思決定できるリーダーシップが大事なのではないかと思います。

日本では「官民データ活用推進基本法」が制定されたことで、現在、「情報銀行」の普及・実用化のための実証実験が行われています。企業データの重要性を考えると、データの利活用を促すための法制度改革も必要です。

今、社会の価値は、モノからソフトや情報へ変わっています。AI等の導入で、仕事の内容が変わり、新しい仕事生まれます。だからこそ、モノづくりが強みの日本は、更にDTを活用した高付加価値型のビジネスモデルやサービスを構築し、デジタルトランスフォーメーションに取り組んでいただきたいと思うのです。

## 7. デジタル時代への日本の処方箋

1865年に英国で制定された自動車の交通規制法「赤旗法」は、蒸気自動車に旅客をとられた馬車業界や煤煙による環境汚染を心配した農業者が議会に働きかけて作った法律です。自動車の速度制限をして、自動車が走る前に赤旗を持った人が立ち、危険を知らせなければならぬというものでした。このようなことをしている間に、ダイムラーとベンツが、ガソリン車という新しい技術を開発して、あっという間に英国を追い越してしまいました。

現在、ドローンや自動運転等の新しい技術が次々と出てきていますが、日本はそれにブレーキをかける方向になりがちです。中国や米国等のように、新技術に対して自由な規制環境の国は、どんどん技術革新が進んで、パラダイムシフトを起こしています。我々は、そのことを肝に銘じて、頑張っていかなければならないと思います。

モーニングセミナー  
4 月

テーマ 「発信！とちぎ自慢」

—経営者はガンで死んでも、ボケてもいけません！—



講師：佐藤 俊彦 氏

医療法人D I C宇都宮セントラルクリニック 理事

昭和35年9月17日生まれ

【経歴】

1985年 福島県立医科大学卒業 同大学放射線科入局

1993年 獨協医科大学病院 非常勤講師

1993年 鷺谷病院 副院長

1997年 宇都宮セントラルクリニック設立 代表就任

2011年 メディカルリサーチ(株)設立 顧問就任

2014年 NPO法人 ピンクリボンうつのみや設立 理事長就任

2018年 医) N I D Cインターナショナル

画像診断クリニック設立 理事長就任

【著書】

『薬いらずで認知症は防げる、治せる！』(イーストプレス)、

『最新放射線治療でがんに勝つ』(幻冬舎) 他多数

日 時：平成31年4月10日(水) 8：00～9：00

会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者：56名

#### 【講演要旨】

皆さんは、慢性外傷性脳症（CTE：Chronic Traumatic Encephalopathy）を取り上げた映画『コンカッション』をご覧になりましたか。このCTEは、頭部に衝撃を繰り返すと発症すると言われていて、アメフトやボクシング等の激しいスポーツで活躍した人ほど、晩年、精神障害や認知症等の症状を起こすと考えられています。

河合雅司氏は、著書『未来の年表』で、2020年に女性の半数が50歳を超え、2024年に全国民の3人に1人が65歳以上の高齢者になり、2033年には3戸に1戸が空き家になると言っています。高齢化と人口減が急速に進んでおり、そのような社会で問題になるのが、がんと認知症です。がんについては、早期に発見・治療することで、高い確率で治る時代になってきていますので、本日は、まだ根治できない『認知症』の話をしたと思います。

現在、高齢者による交通事故や犯罪、トラブルが増加傾向にあります。これも認知症が関係していると言われていています。

九州大学が長年行っている生活習慣病調査『久山町研究』の結果からも、高齢になるほど認知症になる人が増加します。特に、アル

ツハイマー病は、65歳頃から徐々に増え、75歳ぐらいで急激に増えます。

認知症は、認識、記憶、判断に支障をきたす状態のことで、治療ができない認知症と治療ができる認知症があります。

治療が困難な認知症は、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症等の変性認知症と呼ばれ、脳の神経細胞が減少していくものです。予防や治療が可能な認知症には、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、甲状腺機能低下、血管性認知症、医薬品影響、ビタミンB12の欠乏症等があります。

認知症の中でも、アルツハイマー病の割合が年々増加していますが、正確な診断をされずに、アルツハイマー病にしか効果がない抗認知症薬が処方されている場合もあります。適切な治療でQOLを改善できる認知症もありますので、適切な検査を行い、正確な原因を突き止めることが重要です。

症状により、脳のどの部分に異常があるのか分かるのが認知症です。前頭葉に異常があると、理性的思考や感情のコントロールができなくなります。頭頂葉に異常があると、物体の位置や方向を捉えることができなくなり、自宅近くで道に迷ったりするようになります。昨日何を食べたか、誰と会ったか等の記憶力は、側頭葉の役割です。民話『遠野物語』で座敷童を目撃したほとんどが高齢者だったのですが、後頭葉が冒されると、幻覚が出ます。

私が認知症に取り組まなければいけないと思ったのは、尊敬していた社長が重度の認知症になったことでした。多系統機能委縮症の疑いで東京の病院に通院していましたが、正確な診断がされず、最後は自分のこともわからなくなってしまいました。

治療が困難な認知症は、MCI（軽度認知障害）の段階で適切な治療をすれば、発症を遅らせることができるのですが、MCIの診断ができないのが現状です。なぜ、できないのかというと、認知症診断では、問診・臨床検査、心理テスト、画像検査等を行うのですが、PET検査をできる施設が少ないからです。

画像検査は、PET、SPECT、MRIで行います。PETは、脳の代謝量で機能変化を知ることができます。SPECTは、細胞の減少による脳血流の低下を検出できます。MRIは、更に進行して萎縮が起こった段階で確認できます。MCIを発見できるのがPETなのですが、保険適応となるのがSPECTとMRIのため、発見できるタイミングが遅くなってしまうのが現状です。

アルツハイマー病の危険因子には、①年齢、②家族歴及び遺伝的性質、③その他（頭部外傷、心臓と脳の繋がり、全般的に健康的な加齢）があります。特に親や兄弟がアルツハイマー病の人で、家族に2人以上いる場合罹患率が高まります。また、高血圧、心臓疾患、脳卒中、糖尿病、高コレステロールの場合、血管にダメージが蓄積され、血管性認知障害を起こしやすくなります。

昔、双子の姉妹「きんさん」と「ぎんさん」がいましたが、死後、二人の脳を解剖したら、アルツハイマー病でした。それなのに、なぜ笑いをとる会話できたのかというと、脳細胞が減滅しても、認知予備能力が高ければ、認知機能を維持する事ができるからです。ですから、この認知予備能力をどのようにして活性化するかが重要になります。そのためには、歩きながら引き算をする等、マルチタスクの負荷をかけると良いと言われています。

アルツハイマー病になると、脳神経細胞の減少、海馬を中心に脳が委縮、脳に老人班ができる、神経原線維変化等の症状が現れます。加齢やアミロイドβが脳に蓄積することにより、神経細胞を脱落させ、脳萎縮を進行させることが原因と考えて、全世界の大手製薬会社が治療薬を開発してきましたが、効果を得

られませんでした。そのため、フランスでは、抗認知症薬4種類を副作用が多い割に効果が不十分だとして、保険適用対象外としました。この4種類は日本でも使用されていますが、今後、日本も適用外になる可能性があります。

最近の研究では、アルツハイマーとCTEの患者ではアミロイドの蓄積の仕方が異なるため、アミロイド仮説が否定され、ホモシステイン酸が注目されています。順天堂大学の研究でも、尿中のホモシステイン酸濃度が高いほど認知機能が上がり、血中のホモシステイン酸濃度が高ければ高いほど認知機能が下がるという結果が出ています

そこで、当クリニックと佐賀女子短期大学の長谷川名誉教授で『Phenomenon 1969』というサプリメントを開発して、アルツハイマー患者91人に2カ月飲んでもらい、前後のホモシステイン酸血中濃度を測ったところ、投与前に比べ投与後は、皆、濃度が下がり、認知機能検査でも認知機能が改善されるという結果を得ることができました。

リスク要因がある方は、60歳を超えたら一度、脳PET検査をしていただくと思います。PET検査を受ける場合、脳PETと全身PETのどちらか片方でも、両方受けても、使用する薬の量は変わらず、被爆量は同じなので、早期発見のためにも両方受けていただくことをお勧めします。そして、脳PETで異常があった場合は、神経内科を受診し早期に治療を開始してください。また、症状が軽度のうちは診断が難しいため、診断内容が気になる場合は、セカンドオピニオンを受診することもお勧めします。早期発見・治療をするためにも、MCIをきちんと診断できる医師に診てもらうことが重要です。

当クリニックでは、更に正確に病気の診断ができるよう、PET装置の分解能、感度、定量性が従来と比べて大幅に向上した『フルデジタルPET/CT』を導入しました。また、がん等の治療では、治療回数を減少させ患者さんの負担を軽減することができるよう、サイバーナイフやトモセラピーという『高精度放射線治療装置』を導入し治療を行っています。

物忘れや体調等に、少しでも気になることがありましたら、ぜひ気軽に問い合わせただければと思います。

モーニングセミナー  
5 月

テーマ 「発信！とちぎ自慢」

—地域と共に歩むプロバスケットチーム 栃木ブレックス—



講師：鎌田 眞吾 氏

株式会社栃木ブレックス 代表取締役社長

1977年9月5日、東京都中央区生まれ。

【経歴】

- 2000年白鷗大学経営学部経営学科卒。  
大学時はバスケットボール部に所属し4年時には主将を務める。
- 2000年株式会社大塚商会に入社、OA機器営業職。  
同社のバスケットチームであった大塚商会アルファーズ（当時JBL日本リーグ）に所属し、2004-2005シーズンから2006-2007シーズンまで主将を務める。
- 2007年4月に大塚商会を退社後、ドリームチームエンターテインメント栃木（現 栃木ブレックス）のスポンサー営業を担当として入社、2008年5月より取締役役に就任。
- 2012年6月代表取締役役に就任。2014年、2017年日本トップリーグ連携機構「トップリーグトロフィー」を受賞。

日 時：令和元年5月8日(水) 8:00～9:00  
会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間  
参加者：57名

【講演要旨】

栃木ブレックスは、栃木県をフランチャイズエリア、宇都宮市をホームタウンとして活動しています。設立は2007年で、JBL2からのスタートでしたが、そこで優勝してJBLに昇格し、企業チームが主であった中、2010年にプロチームとして初優勝しました。2016-2017シーズンからBリーグになりましたが、そこで優勝して、初代王者となりました。

理念を「強く愛されるモチベーションあふれるチーム」とし、ビジョンは「日本バスケットボール界をリードするチーム」「地域密着で栃木県を元気にして盛り上げるチーム」「非日常のアリーナエンターテインメントを提供するチーム」の3つを掲げています。強いだけでなく愛されるチームであること、見ている方に、気付きやモチベーションアップ等「何か」に気づききっかけをプレーで見せられるチームになれるよう活動しています。

2018-19シーズンは、東地区で千葉ジェッツに次ぐ2位でした。Bリーグ開幕から、3年連続でチャンピオンシップに進出しています。クォーターファイナルは、多くのファンの方々に来ていただいたおかげで、川崎ブレイブサンダースに2連勝することができまし

た。セミファイナルは、外国人選手の怪我等もあり、非常に悔しい結果となってしまう、チャンピオンシップ4位で終了しました。

ホームゲームの観客動員数ですが、今シーズンは、平均入場者数が4,004人、ブレックスアリーナ宇都宮で開催時の平均入場者数が4,087人となっています。ホームゲームの総入場者数は、昨年より1万528人増加し、12万人を超えました。試合の興行は、大きな収入源ですので、2試合分増えるというのは、非常に大きなことだと思っています。

公式ファンクラブは、有料・無料の会員プランを作り入会いただいています。情報の発信にはSNSを利用していますが、今、フォロワー数がリーグ内で3位となっています。

Bリーグで毎年開催する、オールスターゲームのスターティング5は、ファン投票で選ばれるのですが、今年は、田臥勇太、渡邊裕規、ライアン・ロシター、ジェフ・ギブスの4人の選手が選ばれました。これは、ファンの方たちの熱さが一番高かったからだと思います。また、日本人選手に限らず、外国人選手も人気が出てきているのを感じます。

設立当初から、地域貢献活動にも力を入れており、活動回数は3,495回となりました。選手による小学校への訪問活動、選手・BREXY・ブレッキーが地域のお祭りやイベント等への参加を行っています。地域の方々と触れ合う機会を多く持つことで、地域に支えられているチー

ムとして、しっかりと地域に恩返しをしなくてはならないと思っています。

ビジョンの中にもあった通り、非日常のアーナエンターテインメントを提供できるよう、会場造りも大事にしています。スポンサー企業の表示をしたり、ゲート部分にマスコットキャラクター『ブレッキー』の大きな風船を置いたりして、ホームゲームに来たと実感できるような演出等を行っています。

また、スポーツ観戦＝飲食というのは、非常に大事な部分ですので、来シーズンは、よりお求めやすく、喜んでもらえるような飲食物の商品設計を行っていきたいと思います。

席は、今シーズンから、グループで観戦ができる、ドリンクチケット付の『コーナーBOX席』を会場4隅に作りました。また、3階のラウンジ席は、観戦チケットに食べ放題・飲み放題付きで販売しています。どちらも非常に好評で、毎回満員となっています。

チャンピオンシップのクォーターファイナルがホーム開催できましたので、スポンサー様にご協賛いただいて、来場者全員にTシャツをプレゼントしました。選手は、ファンの皆様の後押しがあると、非常に気合が入りますし、ファンの皆様のためにも絶対に勝つという想いも強くなります。会場が黄色一色になると、一体感が生まれ迫力がでるので、皆様にも喜んでいただけたのではないかと思います。また、4面天吊ビジョンに、県内の映像制作会社「ファンタスティックモーション」に作成していただいた、幻想的で迫力のあるオープニング映像や選手紹介の映像を流し、いつもとは違う演出を行いました。ファンの皆様のボルテージがアップするような演出ができたのではないかと思います。

日本のバスケットボールですが、FIBAバスケットボールワールドカップ2019への出場が決定しています。日本は、予選リーグで、アメリカ、チェコ、トルコと対戦します。ワールドカップ出場を決めるアジア地区予選のイラン戦では、ブレックス所属の比江島が、24得点4アシストと大活躍しました。

2020年の東京オリンピックは、開催国枠で出場できるか危ぶまれていましたが、皆さまの応援のおかげで、5人制・3人制のどちらも男女代表ともに出場が決定しました。5人制男子は、44年ぶりの出場となります。

日本人初のNBA選手となった田臥選手に

続く2人目として、渡邊雄太選手が活躍しています。また、強豪大学で活躍している八村塁選手等、徐々に誕生していますので、今後は、強豪国とも十分渡り合える実力も兼ね備えてくるのではないかと思います。今後、ワールドカップや東京オリンピックで注目されると思いますので、それに合わせて、Bリーグも盛り上がるのではないかと思います。

日本代表選手ですが、栃木ブレックスからは、比江島慎選手、竹内公輔選手がメンバー入りしました。予備登録選手には、遠藤祐亮選手と日光市出身の橋本晃佑選手が選ばれています。橋本選手は、今年26歳になる若い選手ですので、東京オリンピックに出場できるよう、発破をかけて頑張らせたいと思います。

ブレックスの強みは、地域の皆様からの応援と日本一と言われるファンの熱さだと思っています。どのチームと対戦しても、アウェーに行っても、声を張り上げて応援してくれるので「栃木のファンってすごいよね」と言ってもらえます。移籍してきた選手からは「本当にやりにくかった」と必ず言われます。地域やファンの皆さまにサポートしていただき、成長させていただいたから、今の順位や強さになって、この12年間歩んでこられたのだと思っています。

チームでは『Brex Mentality』という言葉をよく使うのですが、チームの歴史というのは、そのチームの精神性やスタイルを継続させていくことで確立されていくのだと思っています。この12年間、田臥選手を中心として、ブレックスらしさを体現してくれていますので、若い選手に、ブレックスでプレーをするというのはこういうことだと伝えられていると思っています。最後の最後まで諦めない姿勢とか、泥臭くてカッコよくなくてもいいから一生懸命プレーをする、そういうところがブレックスの良さだと思っています。では、何故それをやっているのかというと、やはり、地域やファンの方々が応援してくれているからだだと思います。自分たちは、栃木県の地域に根差したチームですので、これからもこの『Brex Mentality』で、地域を元気にするチームを目指し続けていきたいと思っています。

モーニングセミナー  
6 月

テーマ 「発信！とちぎ自慢」  
一皮から革へ タンニン鞣しの極意一



講師：山本 昌邦 氏

栃木レザー株式会社 代表取締役社長

1954年10月8日、静岡県湖西市生まれ。

【経歴】

1972年 浜松商業高校貿易科卒業

大倉商事株式会社入社

1985年 8月栃木皮革株式会社入社

2004年 6月栃木レザー株式会社発足時社長就任

現在に至る

日 時：令和元年6月12日(水) 8：00～9：00

会 場：宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者：60名

【講演要旨】

当社は、昭和12年創業で、本年が82年目となります。軍需工場として設立され、ウサギの毛皮製造でスタートしました。外套や耳当て、靴等の裏側の防寒として毛皮を始め、その途中に、タンニン鞣しの革作りに徐々に進行し、現在に至っています。

皮革が事業化されたのは明治時代で、日本最古の工場と言われているのは、1907年に設立された日本皮革(株)、現在の(株)ニッピです。設立には、次の1万円札の顔になる渋沢栄一さんも発起人として記されています。

鞣しは、我々の生活に非常に密着していて、一説には200万年前の人類の登場とともに発生したといわれています。その一番の用途は、衣服に代わるものであったということです。

「鞣し」とは、動物の「皮」をそのままにしておくと腐敗して、利用価値が無くなってしまいますので、加工処理を行い、腐敗しない状態にすることです。科学的には、脱毛後の裸皮はコラーゲン組織の塊なので、鞣剤を施し、タンパク質構造内に架橋結合をさせて、形状を安定させます。原始的な方法に、煙や植物の汁、口の中で噛む等の方法があります。鞣

しが終わると「皮」から「革」という表現に変わります。

現在、鞣しは「タンニン鞣し」と「クロム鞣し」という二つの方法が主流です。世界で流通している革の95%以上はクロム鞣しの革です。実際、日本でタンニン鞣しを行っているのは、当社を含めて2社だけで、それぞれ違った加工方法で、工夫をして革を作り上げています。

クロム鞣しは、塩基性硫酸クロム(Ⅲ)、簡単に言うと三価クロムを主成分とした鞣剤で鞣す製法で、17世紀から18世紀頃に英国で発見されました。この発見により、一気に靴の文化がヨーロッパに広がったと言われています。現在も、世界中で生産される革の6割から7割が、靴用の革となっています。ただ、クロム鞣しについては最近、使用する化学薬品の三価クロムが、焼却すると化学変化を起こし、環境や人体に影響のある六価クロムを発生するとして、少し使用に制限が出ていますが、クロム鞣しが主流であることは続いています。

ここ十数年の間に急速に生産が増えたのは、自動車用の革です。特に中国で革シートの需要が大きく伸び、一時は靴の需要を上回る量に達したと言われていました。ただ、最近中国では、排水に対しての規制が非常に厳しくなったため、一時は5000社あったといわれている鞣し業者が、今や千数百社というところまで減ってしまい、一気に生産量が落ちてい

るのが現状です。

タンニン鞣しは、極めてナチュラルな状態で鞣しを進めていくのが特徴です。クロム鞣しは「Chemical tanning」、タンニン鞣しは「Natural tanning」と表記します。タンニン鞣しは、身近にある「渋」、茶渋や柿渋等、植物に含まれるタンニンを利用して鞣します。

当社は、日本で唯一、伝統的なピット式製法で、天然成分を使用した、フルベジタブルタンニン鞣しを行っています。鞣しには、大量のタンニン剤が必要となるので、ミモザの樹皮から抽出した質の高いタンニン剤をブラジルから輸入して使用しています。タンニン剤となる植物は、ミモザ、ケブラチョ、チェスナット等で、南回帰線、北回帰線の線上に生息する木がほとんどです。プランテーションで栽培された木からタンニンを抽出するのですが、幹は、枕木やバット、薪、紙の原料等、生活に必要なものに利用されています。

タンニン鞣しのデメリットは、クロム鞣しに比べ、非常に手間と時間がかかることです。原皮から革に仕上げるまでに、クロム鞣しは1週間から10日でできるのですが、タンニン鞣しは、さらに時間がかかります。特に当社の場合、こだわりを持って、約20に及ぶ細かい作業工程を行っているため、最低2ヶ月はかかってしまいます。また、工程を自然の流れの中で行うことに主眼を置いているため、天候により納期が遅れてしまうこともあるのですが、より良い物を供給するために、ご理解いただきながら続けています。タンニン鞣しは、加工方法に決まった方程式はありません。個体による皮の厚みの違いや温度・湿度等の状況により、管理や見極めが必要となるため、職人の勘と経験に頼るところが大きいのも、クロム鞣しと比べてタンニン鞣しの難しい点となっています。

現在、皮の流通は、基本的に飼育されている動物の皮に限定されています。原皮の流通量が最も多いのは牛で、次いで、羊、山羊、豚、鹿等となっています。特殊な種類の原料であるエキゾチックレザーは、ワシントン条約で厳しく規定されています。

革の歴史ですが、ヨーロッパでは、1600年代には既に事業化されていて、馬具、ベルト等のファッションからスタートしました。私

の知る範囲では、1620年設立の工場が、今も英国に存在しています。ロシアは、1700年代に軍需目的で国営工場が多く設立されています。アメリカは、馬具を中心に発展し、1900年代前半頃から積極的に事業化しています。現在、皮革工場が、中国からベトナムやタイ等に移転しつつあるといわれていますが、どの国でも、労働環境や水の浄化が大きな課題になっていて、当社にも、バングラデシュやモンゴル等の産業界から見学に来ています。

ベジタブルタンニン革は、伸縮性が少ないため、硬くて丈夫で型崩れしにくく、使い込むにつれて、自分の革だと表現ができるように風合いが増すのが特徴です。そして、使い込めば使い込むほど、加脂（手の脂）により色味の変化やツヤ感等ができるので、革の経年変化を楽しむことができます。革自体の保湿や維持のためにも、クリームを使っただくのは非常に有効です。

動物の皮は、個体によって差があります。そのため、タンニン剤による自然な鞣し方法の革の染色は均一な色にならず、一枚一枚表情が違います。用途によっては、向かない、使えないということも起こってしまうのですが、当社の革は、100%天然のタンニン鞣しですので、製品を地中に埋めたとしても、いずれは土に戻ります。

鞣しの大きな問題は、工程で使用する大量の水の浄化です。当社は、栃木レザーになった15年前に、化学薬品を利用した水の浄化を一切やめて、自然な状態で浄化できるよう排水設備のシステムを変えました。現在、バクテリアと酵素を利用して、段階的に汚水を中和させています。水を浄化した際に出る汚泥は肥料化して「土かえる」という名前で肥料登録しました。土に戻するため、ゴルフ場や福島の果樹園・農家等で、土壌改良剤として少しずつ利用が高まってきているところです。

鞣す行為で、動物の皮は「皮」から「革」になって、浄化された水は「川」に戻り、汚泥は肥料になる。なおかつ、鞣された革は、世界のファッションをリードする、トップブランドの高価値・高品質の素材にもなります。皮を鞣す行為は「エコサイクル」そのもので、最近よくいわれる持続可能な事業にも繋がってくるのではないかと考えています。

## 第32回全国経済同友会セミナー（新潟県）

日 時：平成31年4月11日(木)～12日(金)

会 場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

参加者：約1,300名（内、本県参加者53名）

「第32回全国経済同友会セミナー」が全国44の経済同友会から約1,300名が参加し新潟県新潟市の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催された。

「新時代へのイノベーション～ポスト平成の成長戦略を描く～」を総合テーマに、初日は基調講演や分科会が行われ、当会からは53名が参加した。

オープニングでは、佐渡の青木鬼太鼓が披露され、市川晃氏（全国経済同友会セミナー企画委員長）の開会挨拶、山本善政氏（新潟経済同友会筆頭代表幹事）、花角英世氏（新潟県知事）の歓迎挨拶の後、天才プログラマーとして知られる落合陽一氏（ピクシーダクトテクノロジーズ代表取締役CEO）による、「新元号を迎える多様性社会へ」と題した基調講演が行われた。



その後、4つの分科会に分かれ、活発な議論が交わされた。

第1分科会「超スマート社会がもたらす恩恵、次世代の産業変化への対応」

第2分科会「新時代のサステナブルマネジメント、社会から選ばれ続ける企業であるために」

第3分科会「日本教育のパラダイムチェンジ、ポスト平成の日本社会を支える人材育成」

第4分科会「モノ・コト・ヒトの交流が生み出すイノベーション、ローカル to ローカルによる価値創造」

2日目は、4つの分科会の議長による分科会報告が行われた。

その後、小林喜光氏（(公社)経済同友会代表幹事）の総括挨拶に続いて、「ときめきのとき～文化とは～」と題して宮田亮平氏（文化庁長官・金工作家）による特別講演が行われた。



閉会にあたり、次期開催地代表挨拶があり、弥勒美彦氏、小川雅弘氏（土佐経済走友会代表幹事）が高知県土佐市のPR映像を交えながら参加を呼び掛けた。

最後に、吉田至夫氏（新潟経済同友会代表幹事）が閉会の挨拶を行い、2日間のセミナーを締めくくった。



## 地域振興委員会・社会貢献活動推進委員会・行財政改革委員会 提言書手交

地域振興委員会 委員長 板橋 信行 (株)板通 代表取締役社長  
社会貢献活動推進委員会 委員長 大西 盛明 (株)オニックスジャパン 代表取締役  
行財政改革委員会 委員長 岩見 高士 (株)浜屋組 代表取締役社長

日 時：令和元年5月15日(水) 11:30~12:00

会 場：栃木県庁本館9階 知事応接室



令和元年5月15日(水)、平成29年度・30年度の委員会活動の成果として、地域振興委員会、行財政改革委員会が福田知事に、社会貢献活動推進委員会が福田知事と荒川教育長に提言書を提出した。

また、社会問題委員会が栃木県内各市町長に提言書を提出するのにあわせ、福田知事に協力をお願いした。

### 【地域振興委員会提言書】

『持続可能な「観光立県とちぎ」の構築～2020年東京オリンピック・パラリンピック後の観光戦略に向けて～』

提言1：観光局（仮称）の県庁内設置

提言2：推進体制の構築

### 【社会貢献活動推進委員会提言書】

『遅いといちぎの担い手の育成』

提言1：より実効性の高いキャリア教育推進指針の策定

提言2：産学官連携による新たな『キャリア教育推進協議会』（仮称）の設置

### 【行財政改革委員会提言書】

『地方創生に向けた公民連携の在り方～提案・互恵・参画を促す基盤づくり～』

施策の方向1 「民間からの提案を促す仕掛け」  
施策の方向2 「行政と企業・住民に利益を生む知恵」

施策の方向3 「地元企業が参画できる枠組み」  
具体策 「地域プラットフォームの構築」

### 【最後に】

これらの提言が栃木県をさらに豊かに発展させるための施策推進の一助となることを切に願う。

# 社会問題委員会 提言書手交

委員長 上野 勝弘（上陽工業㈱ 代表取締役）

日 時：令和元年 5月31日(金) 10：20～10：40

会 場：自治会館 2階 特別会議室



社会問題委員会では、「空き家問題対策～空き家の利活用方策について～」をテーマに平成29・30年度の2年間にわたり調査研究を進めてきたが、その活動の成果として提言書「空き家を地域コミュニティのトリガーに」を作成した。

## 【提出先】

空き家への対応は市町が主役であることから、今回25市町各々の首長宛とし、当会の小林筆頭代表理事・上野委員長から、市町を代表して宇都宮市の佐藤市長及び野木町の真瀬町長に手交し、意見交換を行った。その他23市町については、市長会、町村会のご協力に

より同日提言書を発送した。

## 【内 容】

地域の中で空き家をいかに発生させないか、また発生した空き家を早期に流通ラインに乗せていく仕組みづくりが特に重要であり、現状の県内25市町の空き家対策取組状況についても調査した上で、提言1では、自治体内の対応組織整備や地域の協力体制の構築について、提言2では、空き家バンク等の利活用方策の推進について訴え、むすびに地方創生に向けた施策の一環として25市町が積極的に空き家問題に取り組み、より魅力ある栃木県となるよう提言した。



## 社会問題委員会 第1回委員会

委員長 吉田 元

(関東自動車㈱ 取締役専務執行役員)

日時：令和元年5月24日(金)15:30~17:30

会場：表参道スクエア6階 多目的ホール

参加人数：23名

社会問題委員会では、「健康長寿県 とちぎ」の実現～疾病予防・健康づくりに向けて～」をテーマに調査・研究がスタートしたところであり、第1回委員会では、吉田委員長による調査・研究の方向性の確認や、栃木県の施策の現状把握に焦点を当てて開催した。



### 【第1部】

#### ○吉田委員長挨拶及び調査研究の方向性

吉田委員長から今後の委員会の方向性について決意表明及び参加依頼を行った。当面、1つ目の柱として栃木県での死因別死亡数1位のがんを減らすため、具体的にはがんの中でも上位を占める胃がんや大腸がんを中心に施策や予防医療の深掘りを進めること、2つ目の柱として、全国平均を上回る死亡率の心疾患・脳血管疾患等を減らすための施策や予防医療を同様に深掘りをしていくとの方針を発表した。

### 【第2部】

#### ○栃木県の現状把握（講話）

講師：栃木県保健福祉部健康増進課 柏瀬課長

演題：「栃木県のがん対策について」

##### (1) 栃木県のがんの状況

###### ① 健康寿命と平均寿命

栃木県は、平均寿命は全国下位に低迷しているが、健康寿命については、男性は72.12歳で19位、女性は75.73歳で6位と健闘している。

###### ② 県内のがん種別罹患割合及び死亡割合

罹患割合では、男女共に胃がん、大腸がんが上位を占めるが、特色として男性は前立腺がん、女性は乳がんの割合が高い。死亡割合では、生存率が低い肺がん、膵がん、肝がんの割合が増える。

##### (2) 栃木県のがん対策

###### ① がん対策推進条例

平成30年4月に施行し、県、県民、医療機関、事業者等の責務を規定。また、がん対策推進協議会を設置し、県民一人一人ががんを知り、がんと共生する地域社会の構築を目指して。

###### ② がん対策推進計画

平成30年3月に3期計画（計画期間5年）を策定。がんの予防及び早期発見、医療の充実、患者を支えるための環境づくり、推進する上で必要な基盤の整備等を掲げた。



###### ③ がん予防

県内の成人の喫煙率は減少傾向にあるが全国でも高い状況にあり、禁煙対策の実施や、食塩や野菜の摂取量や運動習慣等の生活習慣の改善を様々なプロジェクトを通じて推進している。

### 【第3部】

#### ○意見交換

栃木県の現状を踏まえた上で、委員の方から調査研究のポイントや提言書の取り纏めの要望等、数多くの御意見をいただいた。



## 国際化推進委員会 第1回委員会

委員長 石川 尚子

(オリオンコンピュータ株 代表取締役)

日 時：令和元年5月27日(月)16:00~17:30

会 場：うつのみや表参道スクエア 多目的ホール

参加人数：21名

国際化推進委員会では、「グローバル人材に選ばれるとちぎづくり～県内企業の活力に繋がる外国人受入体制構築に向けて～」をテーマに調査・研究が始まった。

### 【第1部】

#### ○石川委員長挨拶

外国人材受入れに関する現状や課題、それらに対する本委員会の取組方針を共有し、今後の委員会運営について決意表明及び参加依頼を行った。



### 【第2部】

#### ○講話『栃木県における外国人材の雇用の現状』

講師：栃木県産業労働観光部国際課  
課長 上崎 純一 氏

#### (1) 外国人材の受入拡大について

4月1日より新たな在留資格に基づき外国人労働者の受入れを拡大する改正出入国管理及び難民認定法が施行された。2018年2月20日の経済財政諮問会議における安倍総理からの指示を受け、国としても走りながら検討してきた。

#### (2) 外国人労働者の状況

国内の外国人労働者数は1,460,463人で過去最高を更新。しかし労働基準監督署の調査では、70%以上の事業所で違反が判明。適正な労働環境の確保が課題。

県内では24,061人で同じく過去最高。国籍別ではベトナムが最も多く4,111人、資格別では永住者に次いで技能実習生が多く

6,724人となっている。

県としても、早急に外国人材受入体制を構築すべきと考えるが、企業等では情報が不十分な為に雇用に踏み切れない面もある。今後より一層企業や地域など社会全体を巻き込んで取り組む必要がある。

#### (3) 外国人材の雇用に関する県の取組み

外国人雇用に関するセミナーの実施・企業向け相談窓口の設置・外国人住民向け相談窓口の拡充（4言語→11言語）・多言語による防災情報の提供、といった取組みを実施していく予定。また「とちぎ外国人材活用促進協議会」を立ち上げ、企業や業界団体が連携し諸課題の検討・情報共有を行うことで、企業等の適切な受入れを支援する。

#### (4) 課題と今後の展望

特定技能の具体的な運用はこれからだが、諸課題を解決すべくプラットフォームを作る。また適切な対策が行われるよう国への要望も行い、「世界に選ばれるとちぎ」づくりを推進していく。



### 【第3部】

#### ○今後の委員会活動の方向性について意見交換〈一部抜粋〉

- ・就労の面だけでなく、日本語能力を中心に生活面でも体系的なフォローが必要。
- ・インターンシップなど企業と学生が繋がる機会を増やしたら良いのでは。
- ・育成した人材が自社に定着するよう工夫が必要。

#### ○委員長総括

非常に奥深く難しい課題であるが、論点を絞り、最終的に栃木で就職してもらうことを一番に考えて進めていきたい。



# 産業政策委員会 第1回委員会（講演会）

委員長 内藤 靖（株テラクリエーション 代表取締役）



講師：平井 裕秀 氏

内閣官房日本経済再生総合事務局 次長

演題：「Society5.0」

## 〈略 歴〉

1987年 東京大学法学部卒業  
1987年 通商産業省入省  
2004年 中小企業庁財務課長  
2013年 大臣官房総務課長  
2017年 内閣官房内閣審議官  
2018年 内閣官房日本経済再生総合事務局次長  
現在に至る

日 時：令和元年 5月29日(水)16：00～17：30

会 場：宇都宮東武ホテルグランデ

6階『龍田』

参加者：56名

産業政策委員会では、令和元・2年度のテーマを『活力ある栃木の産業構造を創造する～とちぎの産業の持続的発展を目指して～』とし、委員会活動を開始しました。

## 【第1部】

### ○内藤委員長挨拶

講演に入る前に、内藤委員長から今後の委員会活動について所信表明を行った。要旨は下記のとおり。

#### ①Society5.0

少子高齢化、生産労働人口の減少、過疎化、貧富の格差等多くの社会的問題を抱える日本において、産業活動の活性化に繋がる手段の1つとして注目、内閣府も提唱している。

#### ②Japan2.0

（公社）経済同友会が平成30年12月に提言した Japan2.0 は、経済の豊かさの実現、イノベーションにおける未来の開拓、社会の持続可能性の確保をそれぞれ主軸とし、

その3軸の合成ベクトルが国家価値を示している。

#### ③先進事例視察

シリコンバレーや中国杭州で、スタートアップ企業やデジタルトランスフォーメーションの最先端の視察をしたい。

3つのキーワードを中心に調査研究活動をしていく中で、先ず、本日、平井様の講演を通じ、『Society5.0』に対する知識を深めるとともに、加速度的に進化するデジタルテクノロジーと社会の変化にいち早く適合するために必要なモノ・コトそして、我々がどう向き合うべきなのかを一緒に学ぶため、多くの会員の皆様に参加をお願いしたい。



〔内藤委員長 所信表明〕

## 【第2部】平井 裕秀氏 講演

### 【Society5.0 と成長戦略について】

本日、Society5.0、第4次産業革命について、一体、何を議論し、これから霞が関でどうしたことを施策としてみていこうとしているのか、「Society5.0」という表題ではありますが、成長戦略全般のお話しをさせていただきたいと思っています。第4次産業革命の基本的な背景としているのが、データを処理するそのコンピューティング能力というのが、急上昇で伸びてきています。このスピードでは、伸びていかないんじゃないかという限界を指摘されながらも、これが伸びてきたおかげで圧倒的な計算処理能力とその処理能力がいよいよ実現するに至ってきたという状況です。

2014年だったと思いますが、あるアメリカの学者さんが、シンギュラリティという言葉を使い、2040年代にはコンピューターが人間の能力を超える日がやってくる、そうなるとコンピューターがコンピューターを動かすようになり、社会が一変する。もしくは、人間の能力というのが無限になり、そうした日が来るのはシンギュラリティのポイントであるということと言われて、大騒ぎをしました。その議論と今日話に出てくるのはこのAIという人工知能についてです。基本的に、ここで書いてあるところは、何がこの第4次産業革命のポイントかということ、そうした計算能力を最終的にはどうした形で使うのかという部分がこの産業革命の行きつく姿という風になっていて、それを社会の方から捉え直したものがSociety5.0になるわけです。

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の次に来る社会ということで超スマート社会と表現していますが、社会の課題解決にこうしたテクノロジーをどんどん使うことによって、サイバー空間と現実社会が高度に融合して、そうした社会を目指そう、目指すべきである、という運動論がここでいってるSociety5.0であります。

要するに、先ほどの第4次産業革命がツールだとするのはこの目標とするところを捉え直したのがSociety5.0という表現になっています。

Society5.0について、我が国の中で、そうしたイノベーションと社会実装を重点的にやっけていこうとしているのが、フィンテック、キャッシュレス化、次世代モビリティ、スマート公共サービス、次世代インフラ、次世代ヘルスケアであり、これに加えて、農林水産業、中小・小規模事業者の生産性革命、こころ辺を全体として議論してるのが、成長戦略ということになります。



### 【フィンテック／キャッシュレス化】

Society5.0の説明は、2つのファクターが入ってまして、これを資料に書いています。フィンテックは、昨年年末ぐらいから、テレビ、新聞及びインターネットの中で、〇〇ペイの宣伝がやたら見かけることが多くなった、と感じる人もいます。その背景には、フィンテックを活用し、キャッシュレス化を国全体で盛り上げていこうという動きがあります。今年の10月に予定されている消費税の10%引き上げに合わせて、ポイント還元等の措置も講じてクレジットカードだけではなく、色々な形のキャッシュレス化を盛り上げていこう、としています。ここでは、例えば金融サービスの可能性が広がる社会、効率的なIT経営が行われる社会、現金を必要としないキャッシュレス。説明を付け加えますと、皆さん方の日々のビジネスの中で受発注、そこにやりとりする資金決済もオンラインでやっている方も相当多いと思います。実

際に銀行に行かない、日々の集金はもう人なんか使っていないという方も多いと思います。そういった意味での効率化っていうのは当然必要です。いちいち経理の方が、銀行に行く手間や並んでる時間等、無駄なことを無くするというのも1つの目的かもしれません。これに加えて、スマートな企業活動の中で、単にそうしたキャッシュという物理的な現金を使わないというだけでなく、その裏にある取引データがキャッシュレス化によってより容易に集めることができ、それに基づき新たなビジネスや社会変革を実現したいと思っています。

既に日本の国内でも色々なサービスが始まっています。集まった日々の決済データをベースにして、企業の信用度合いというものを測定し、今、お取引されている銀行よりもビビットに、その会社の信用情報というのをつかむ。そのよりビビットな信用情報をベースにしなから、新たな融資活動をしていこうじゃないかっていうビジネスを始めている事業者がいます。こうして情報が既存のビジネスを変えていく、それがきっかけになり、ベースとなって社会変革につながる。

中国では、そうしたB to Bの世界じゃなくて、個人まで含めて、クレジットカードの返済や携帯電話の毎月のお支払い等、個人の決済のデータが集められることによって、それが信用情報としてだんだん蓄積され、その人の信用情報が、刻一刻と変わっていくといった事が始まっています。一方で、日本のキャッシュレス比率というのは、他国に比べて極めて低い状況にあり、キャッシュレス決済率20%です。中国、隣の韓国は、9割と高い比率になっています。日本でも、これを一気に伸ばしたい、と考えている。フィンテックは一部の投資家、仮想通貨を扱う業者だけの話じゃなく、〇〇ペイの話も含め、1人1人の消費者までもがビジネスの参加者となり、新しいサービスにより濃密に接触できるような形に

しようとしているものなのです。



### 【次世代モビリティ】

モビリティの話ですが、1番の典型例は、自動運転です。特にアメリカのGoogle、Alphabetという会社の話がよく出てきますが、日本でも同じように自動車会社が一生懸命始めています。そうした自動運転の車が我々の日々の生活に入ってくるとなると当然、生活が一変し、大きな社会的な変革になると思っています。自動運転車は、人が運転するというところから完全に解放されますので、もうそこはバス、タクシーと自分で運転する車との境目が無くなります。自分で車を持つことに意味がなくなってきました。そうすると産業的に、我が国の基幹産業、大黒柱である自動車産業が一体どうなるのか。日本は世界に向けて生産しているけど、その生産台数はどうなるのか。その自動車産業の下にいる素材産業や電子産業どうなっていくのかも当然考えていかななくてははいけません。

栃木県も恐らく自動車社会だと思いますが、自分で運転すると、駐車場を探さなきゃいけない。そんな問題も、自動運転が始まれば、自家用車が走らないので、解決されることでしょう。道路だって1車線で十分、健康のために自転車に乗ってる方、健康のために歩いている方に多分、道を空けたほうがいいんじゃないかいうところになり、都市の姿、道の在り方まで含めて、考え直すことが必要になってくるのが想定されます。2030年、2040年の世界ではそうした産業構造もがらりと変わり、社会の都市構造自体も見直す必要がある

かもしれません。技術発達は、ますますスピードを上げてますので、そうした事態は我々の考えているよりも早く来るかもしれません。

栃木県では西方の道の駅等、色んな実証実験を日本各地の道の駅でやっています。高齢化が進む中で、バスをより高齢者の足として、使えるように、特に過疎地に行けば行くほど問題になってくる高齢者の足の確保という社会課題をどう解決するのかという意味においても、こうした自動運転、バスをどうやって経営の形で、社会実装をしていくことができるのかということの色んな実験とそのデータ集めをやっています。社会実装には、貨物トラックの隊列走行という実験もあって、高速道路を並んで走ることは、ここの車車間通信を使えば全く技術的にはできるんですが、トラックメーカーと物流会社のニーズを合わせてできるのか。これをやることによって、物流ドライバーの人手不足をどう解決するか、色んな変革が出てくると思っています。

モビリティの世界では、ドローンも1つのテーマです。現在、様々な用途に使われ始めてきています。ただ、我が国の規制の中では、有人地帯で飛行することはできません。今後どうやって無人地帯の目視外飛行越えて、有人地帯の目視外飛行にするか。有人地帯といっても、宇都宮市内のような市街地はもちろん、例えば農村でもそこに人が住んでいれば有人地帯です。今後、どのような見直しが必要で、機器としての信頼度はあるか、将来的にはこの空の上、ドローンがいっぱい飛び始めるかもしれません。昨年、国交省がそのインフラの点検マニュアルを直して、目視でやるというのが規定になっていたものを、ドローンで点検しに行くことをOKにして、人手不足解消にも一役買おうとやっています。他の用途としては、例えば物流です。陸上輸送困難な地域で生活物品を送り込むのに、軽いものだったら飛ばしていけるわけです。その時に、空の上でもハイウェイが必要ではな

いか。ここは飛んでいい、というところを作れば、その下を基本的には歩かないようにすれば、事故は防げます。電力会社が持つてる高圧線の鉄塔の上、そこを飛ばせばいいのでは？山間部でも直線で結べるところが良いのでは？等の議論をしています。そうしたものがいつ社会実装されるのかということで一生懸命に制度の見直しをしています。色々な問題がありますが、そうしたものを1つ1つ片付けることで、ドローンが日本でより我々の社会問題、人手不足問題、過疎問題といったことを解決できるようなことに使えないのかということを考えております。



アフリカのルワンダでは、各地に散在してる病院が突然、必要になる輸血用の血液を国のど真ん中の所にあるドローンのセンターに置いて、ドローンで、山の中を飛ばして、血液製剤を届けるということを既に実用化しています。ケニアはキャッシュレスも実現しています。要するに、この Society5.0 の世界は先進国だけの話ではなく、世界各地で起ってる話だということです。世界各地において、そうしたことがどんどん起こって、日本なんかはもうどんどん置いてけぼりになることが起きてても何もおかしくない。そんな話です。裏を返せば、これが東京で起ってる話であって、田舎のほうは関係無い、という議論をよくされますが、全くそんな話でなないという事です。栃木だと全然そういう感覚ないかもしれませんが、遠隔地域とかいうところのディスプレイを全てなくしていけるのが第4次産業革命の力です。逆にいうと、東京

ど真ん中ではないというディスアドバンテージも消えるので、それはメリットになりますし、東京よりもっと遠い地方の人たちに抜かれていく可能性があるということをも意味するわけです。

### 【スマート公共サービス】

公共の世界でもどんどん変わってきています。新サービス、県民サービス、国民サービスという点でも、どんどん新しいことをやっていくことが必要ですし、それがひいてはわが国の経済社会の効率化を上げていくことになると考えています。現在、国会の審議を終えたばかりのデジタルファースト法案もそうです。1度、役所のほうに出した書類という



のを、同じ書類を2度、3度、他の役所の手続きだからといって出す必要ないよというようなことを可能にするような法律を出しています。

こうやってどんどん公共サービスというのを進化させていきたい。例えば今やろうとしているものの典型模範例ですけど、オーストリアの例です。出生届、令和元年5月29日、今日生まれたお子さんの出生届を今日届けに行くとします。すると、そのお子さんを持ったお父さん、お母さんがやらなきゃいけない手続きというのは、どのタイミングで来るかというのは自動的に分かります。

これは今、毎回同じこと、親の名前、住所、生年月日等々を書かされていますけど、そういうこと1回、出生届の段階で書いてもらえば、基本的データとして、提出するのは1回で良いとなります。その後は、役所の方からそういったものをデータとして送ってきて、ボタン1つの返信で、自動的に完了します、と。確認の作業だけで済むようにできないかと検討を進めています。

同じようにエストニアはロシアからサイバー

攻撃をされたこともあって、非常にサイバーについて厳格になおかつ、一生懸命やってきました。今、世界で最先端いってるところの国であります。給料控除額や納税額がデジタルで自動的に計算され、決定されるサービスが実現できている。こうした国をモデルにしてどんどんやっけていこうとしています。

一律に教育をしていくと、ついていけないお子さんもいっぱいいて、解決するにはテーラーメイドの教育をやってくしかない。インターネットを使ってどんどん次の学習内容は個人向けに、メールでどんどん送られてきてそれを学習するっていう話も、既に実用化されています。でも、そうしたものが公立の小学校で導入することができるのが問題になっています。しかし、個々のこうしたオンラインの教育ということをやっけて、さらにAIを極めていくと、子供が分からない部分を認識し、そこに戻って教育をし始めます。今ある教育についても、こうしたものを使うことにより、公共サービスを変えることもできるかもしれません。スマート公共のところについては議論を、他にも待ち時間ゼロ、窓口手続きゼロというところ目指して、色んな行政手続きの無駄を見直していかなければいけないと思っています。

### 【次世代インフラ】

インフラのメンテナンスが地方における大きなテーマになってきます。データが、きちりと取れてないというのが今の現実です。もっと新しいテクノロジーを簡単に社会実装するための試みとして、革新的河川技術プロジェクトにてサイズダウン、コストダウンしたものをトライアルで採用するということを河川局が始めました。これがどんどん行われてきて、最後にどんどんライブカメラが高度化してやっけてきますと、我々に与えられた社会的課題は、本当に市町村長、都道府県知事が、〇〇警報、避難命令するような社会システムは本当にいいのかという問題に行き着き

ます。そこに至るだけのテクノロジーは解決されて、こうした課題もやってかなきゃいけないと思っています。

デジタルの世界は、建設・土木の世界でも既に始まっていて、特にコマツさんは得意分野で、3次元のデータを前提として、既に無人の自動運転のトラクターを始めとして、色々な大型建設機械を入れています。また、土木の世界に加えて建築の世界でも、BIM、CIMにより、全部データを3次元モデルの中でやっていくことができないかという事が、これからやっていこうとしている話です。シンガポールでは既にこれが実現しています。ある意味、世界に追いついていくことを目指します。

#### 【次世代ヘルスケア】

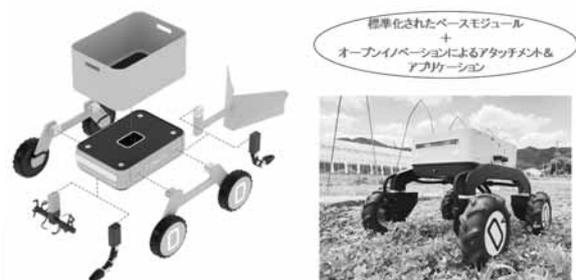
特に遠隔地において我々の病院に行くという概念を考え直さなきゃいけない話になるかもしれません、地域医療構想の話でもあります。既に色々始まっています。ここではICTを活用した様々な医療の試みを紹介しています。遠隔医療も始まっています。遠隔医療のこれまでの映像とは格段に違う綺麗な映像データが送られることによって、遠隔での手術だって可能になるような社会が見え始めてきます。遠隔地に住むおじいちゃんのバイタルデータと常時、病院がつながる社会。薬をもらうのにドローンで運んでもらうこともできるかもしれない。そんなことも含めて、医療の世界は1番、体制が変わる可能性がある。日本というこの高齢化という最大の社会課題を抱えた課題先進国として、受け身的にやるのではなく、より積極的にこのテクノロジーを使わないといけないのではないかと考えています。認知症対策、これも社会的課題です。社会参画してもらうことが、認知症にとって最大の医療ならば、どうやって社会参画できる足を確保していくのかということも大きな課題になってきます。

#### 【農林水産業のスマート化】

農林水産業も変わりつつあります。段々と内水面でもこうした養殖を入れ始めてます。栃木県だってこうした養殖産業というところとも、真面目に付き合っていないといけない、逆にチャンスになるかもしれません。林業です。栃木県スペシャルの資料をおめくりいただくと、日本総研がやっている自律多機能型農業ロボというのがあります。栃木県茂木町で使われている農業用ロボット。ロボットというと、下町ロケットで出てきた自動トラクターをイメージしちゃうわけですが、日本の農家に自動トラクターが1台ずつ入るのは多分、経済的にもペイしないでしょう。人に付き添って、追従して動くので、上に載せるものを変えるだけで、色々な農作業に使えます。MY DONKEY等も使いながら、段々とデータが蓄積できて、効率的に収穫量をどんどん増やせるようにデータを貯められていくことができていると思います。最後に申し上げますと、GoogleとかFacebookとかAmazon、GAFAと呼ばれるプラットフォーム。現在、新聞でも論じられている問題も含め、この夏までに議論を深め、成長戦略という形で、皆様にお見せすることができるようにしたいと思っています。

日本総研

#### 1. 自律多機能型農業ロボット『MY DONKEY』



次世代の国づくり

出典: 日本総研研究所

Copyright © 2017 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved. 34

# 未来経営研究会 通常総会・第1回例会（講演会）

代表世話人 古口 勇二（株古口工業 代表取締役）



講師：生方 玉也 氏

株光洋 代表取締役

演題：「私のブランド戦略」

## 〈略 歴〉

1952年 群馬県生まれ。

家電メーカー関連会社に勤務し、改善手法 I E、Z D、Q C、T Q C、T P M等を学ぶ。その間 T P M 世界大会へ日本代表として参加。

その後数社の中小企業経営に携わると共に栃木県経済同友会にて社会貢献活動推進委員会委員長、国際化推進委員会副委員長等を歴任。

海外経験も長く、36才（1989年1月）から東南アジアを中心に海外駐在、海外担当として約15年間海外生活を送ってきた。ベトナムにて会社設立も経験し、これまでに訪問した国は約40ヶ国。

現在は株式会社光洋の代表取締役を務める。

日 時：令和元年 6 月 4 日(火)17：00～17：50

会 場：宇都宮東武ホテルグランデ 松柏

参加者：42名

## 【自己紹介】

先ず、改めて自己紹介をさせていただきます。学校を卒業しまして、大手家電メーカー関連会社に入社し、半導体の製造を経験。その後、36才から8年間シンガポール・ベトナムにて社長を経験、日本に帰国した後も海外会社を5年程度担当した。その間業務の関係で海外38カ国程度を訪問しました。その後、国内で、東京大学発のベンチャー企業の常務、人材派遣会社（日本人派遣会社、南米系外国人を主とする派遣会社）2社の社長を経験した後、自動車の内外装部品の開発・製造会社の社長を務めました。その時に、栃木県経済同友会の皆様には色々とお世話になったわけがございます。現在は、株式会社光洋の社長をしています。以前より、私の中では65歳で人生をリセットして、新たな分野にチャレンジしてみたいとの思いがあったのですが、縁があり光洋の社長として今日を迎えています。

36才から海外で2社、日本で其々全く違った業界の会社5社、合計7社の経営を経験して参りました。私は『縁』というものをすごく

感じています。いつも人生の区切りの時に縁がありこんな幸せな人生を送れたと思います。

縁が有り頼まれたら、その会社がどんな会社か、何か問題あるか等はほとんど考えずにやってきました。やると決めたらとことんやる、悔いを残さない生き方をしたいと思って取り組んできました。色々な問題もありましたが、真剣に取り組めば大体のことは解決できると感じています。人の縁と幸運に恵まれた人生に感謝すると共に、何より丈夫な体を授けてくれた両親に感謝しています。

## 【ブランドについて】

「私のブランド戦略」ちょっとかっこいい演題を付けすぎたかなと後悔の念もありますが、ブランドの語源は、家畜に焼き印を押す行為をしたのがブランドの始まりだそうです。今でも、ブランドという英語は、商標と銘柄という意味以外に、焼き印という意味があるそうです。調べてみると、ブランドとは、感じる人のイメージ、受け取る人のイメージがブランドだと感じました。

栃木県経済同友会は、日本全国の経済同友会の中でも、非常に積極的に活動されていて、会員には若い人から経験の豊富な方まで参加されている。それぞれの委員会活動での議論

も活発に行われ栃木県経済の活性化、発展に大きな影響を与えています。栃木県経済同友会には全国の経済同友会の中でも活動が活発で参加する事が楽しいそんなイメージを持っています。そういうブランドを持っている団体という風に、私は思っています。

改めて企業のブランドは、と調べてみると顧客、従業員、株主等全てのステークホルダーに価値があるのであって、従業員や株主に誇りや夢を与えて、企業にも継続的な収益をもたらしてくれる、価値を超えた価値というような事が書かれていました。

そこで、大企業と中小企業のブランドについて自分なりに考えてみたいと思います。大企業は、商品名・企業名…等々、色々な意味でブランドを持っています。パナソニック、ソニー、ホンダ、日産、トヨタ…等々、知名度高く企業名にブランド価値があります。製品の名前を聞いただけで直ぐに解る商品・製品も沢山あります。つまり、大企業は長い年月をかけ、努力をしてそのブランドを作ってきたのだと思います。中小企業は大企業のように社会に認知されたブランドを持っている企業は少ないと思います。少なくとも私の関係した企業にはなかったような気がします。縁も所縁もない私に声を掛けるわけですから、当然ですが皆さんに認知されたブランドがあったり、いい会社で儲かっていたりするならば、私にそういう縁は回ってきません。これまでの経験の中でブランドと言えるブランドを持っていたことは有りませんでした。

#### 【中小企業のブランドにつながるもの】

縁があって会社経営のお話を頂いたときにお受けするか決断する時には、最低限の情報のみを基に判断しています。赤の他人の私にこのような話が来るという事は、何処かに問題が有る事は普通ですよね。お受けすると決めたら先ず3カ月から6カ月の間は、黙って自分の目で会社の状況を隅々まで観察し、自分なりに現状把握を行います。前任者からの

引き継ぎなどは必要最小限のみとします。特に社員個人々人に対する評価は聞かない事に行っています。自分の目で見て、全員と面談をして自分で評価、判断しています。



そして、自分なりにSWAT分析を行い、6年程度の中長期計画を立て、全社員に経営方針を発表します。経営方針と共に、行動指標を作成しています。これは行動指標の方が社員に分かり易いと考えからです。具体的には「スピードで驚きと感動を」とか「5S（3直3定）の徹底」等々。例えば「スピードで驚きと感動を」；お客様から問い合わせがあったらその日のうちに返事を返す等具体的な数字目標を明確にする。内容は60点でも良いから必ずアクションする。それにより、直ぐに返事が来る会社（人）と思って頂ける。それを継続すると徐々に内容も良くなり、早く、確り対応できる会社（人）と評価されるようになります。

「5S（3直3定）の徹底」についても同じように具体的な数字目標や限られた場所（モデル職場）を決め取り組みます。

目標は具体的で誰でも分かり易いように。又、頑張れば達成できる内容からスタートします。定期的に進捗具合を確認し、必要があれば皆で考え、ある時はアドバイスをして目標に向かって出来るまでやり続けること。

たてた目標は必ず達成する（勝ちぐせをつける・達成した時の喜びをあげよう）ことが重要です。それとともにすごく重要なことは、達成したときの結果・成果が社員だけではなく、お客様、株主、サプライヤー、いわゆる全ステークホルダーに結果・成果が見えることが大事だと思います。達成する経験を継続

しながら徐々にただ達成するからダントツの成果を出すということを目指す方向に舵を切っています。これまでどこの会社でもやってきました。これをやると、すごく簡単なことでも、社員が達成感を感じて、自信を持ってくれるということを非常に感じました。こんな当たり前前の事をやり続けることがブランドに繋がると信じています。

### 【現在取り組んでいること】

今の会社で取り組んでいることを少しお話したいと思います。経営に携わり3年になりますが今までと同じくSWAT分析を行い6年計画を作成し経営方針、行動指標を明確にして会社改革に取り組んでいます。やはり特に力を入れている内容が「スピード」と「5S」です。ただスピードと言っても、社員はなかなか理解してくれないので、スピードについて具体的な目標を立てています。例えば営業に引き合いがきたら何時間以内に回答するというような具体的な数字目標を作っています。現実にはなかなかできていませんが出来ない原因を改善しつつ意識改革を進めています。行動指標の最初に、『スピードで驚きと感動を』と書いています。社員みんなと共有しているのは、先ずは内容はともかく早く対応する事で、この会社（この人）は早いね！と感じて頂くようになること。これをやり続けていくと自然に内容の質が上がってきて、最終的に早くて内容も良くなりお客様に「驚きと感動」を持ってもらえるようになることと信じて取り組んでいます。

スピードと共に「5S」にも力を入れています。仕事をする上で最も大事なことは「5S」だと思います。5Sをする上で大事なことは「3直3定」と言っても過言ではありません。決められた物を、決められた場所に、決められた量だけ直角、直線、垂直に置く。全ての物を3直3定の原則に則り管理すると見つけやすく、安全になり異常も発見しやすくなります。地域一番の5S活動を目標にしています。

### 【出来る仕掛けづくり】

ただ言葉だけで言うと、労働強化になってしまうので、本当の改善を確り継続するために、色々な仕掛けをしています。1年前から生産管理システムの全面入れ替えをしました。福島工場の生産状況が東京の事務所・営業担当がリアルタイムで見れるシステムを構築しました。又、東京、営業、工場間のテレビ会議システムを導入しました。これによりお互いの情報共有により性格でスピードある対応が可能になりました。生産管理システムと連結した見積もりシステムも作り直して、もう間もなくでき上がります。そういうシステム



を構築しダントツのスピードで仕事をやろうという事に取り組んでいます。5S活動も定期的にパトロールを行い日々前進しています。

日本電産の永守さんが昔から仰っている『すぐやる、必ずやる、出来るまでやる』これがすごく好きな言葉です。

### 【当たり前を徹底的にやるとブランドになる】

この様に当たり前の目標を立て徹底的に取り組んでいると、あの会社は問い合わせをする直ぐに返事が返って来るし、工場に行くと5Sも確りしていて元気に挨拶してくれるし明るい雰囲気だね。ちょっとなんか頼んでみようかと。これが段々と広がり明るく元気で5Sがしっかりできている会社というブランドになる。

### 【まとめ】

色々纏まりの無い話をさせて頂きました。当たり前の目標を掲げて達成できるまで徹底的に取り組むと企業文化がブランドになる。当たり前の事を徹底的にやる事は簡単そうで難しい。根負けせずに続けないと一定の土俵には到達しません。中小企業は社長の不退転の覚悟と行動が大切なんだろうと思います。そういうことから中小企業のブランドは「社長次第」だと私は思っています。

## 令和元年度 5 経済同友会 (富山・中部・新潟・群馬・栃木) 教育担当委員会交流会

社会貢献活動推進委員会アドバイザー 大西 盛明  
(株)オニックスジャパン代表取締役

日 時：令和元年 6 月 13 日(木)

会 場：群馬県高崎市他

参加者：66名

栃木県経済同友会	11名
富山経済同友会	12名
中部経済同友会	6名
新潟経済同友会	10名
群馬経済同友会	27名

令和元年度 5 経済同友会（富山・中部・新潟・群馬・栃木）教育担当委員会交流会が群馬県で開催され、教育に関わる課題等を議論した。

### 視察（次世代モビリティ社会実装研究センター）

群馬大学荒牧キャンパス内にある次世代モビリティ社会実装センターにて行われた。冒頭挨拶においては群馬大学長の平塚浩士氏からセンターの成り立ちや目的、自動運転についての話を伺うことができた。

また、副センター長の小木津武樹氏からは自動運転についてこれまでの動向や公道実証実験等、研究の取組みについての説明をいただいた。

センター内の見学や自動運転バスの試乗をすることができ、有意義な時間であった。



### シンポジウム（ホテルメトロポリタン高崎）

【第 1 部】民間企業への長期社会体験研修発表  
群馬県総合教育センター所長の上原篤彦氏

から挨拶があり、その後、社会体験研修発表として高崎市立東部小学校教諭の中山拓哉氏と群馬県立太田工業高等学校教諭の飯塚祐二氏から研修内容やキャリア教育の大切さ、研修を活かした実践例等についての話を伺うことができた。

### 【第 2 部】各経済同友会の活動報告

富山・群馬・新潟・中部・栃木の各地経済同友会の活動報告が行われた。栃木県は、講師派遣事業や提言書提出などの活動報告を大西盛明アドバイザーが行った。5 経済同友会が教育に関する取組紹介・質疑応答を行い、有意義な機会となった。



### 【第 3 部】パネルディスカッション

「民間企業の視点からキャリア教育を考える」をテーマに、パネルディスカッションを開催。コーディネーターは共愛学園前橋国際大学学長の大森昭生氏が担当した。パネリストには、第 2 部の活動報告を行った発表者 5 名を引き続きお迎えした。企業が求める人材像から議論が始まり、キャリア教育に関して学校、企業そして同友会がどの様に関われるのか等、活発な議論が交わされた。

次回、令和 2 年度の開催地は新潟県の予定。



## 令和元年度 第1回栃木県経済同友会ゴルフ大会

日 時：令和元年5月25日(土)  
会 場：唐沢ゴルフ倶楽部 三好コース  
参加者：32名

唐沢ゴルフ倶楽部三好コースにて令和元年度栃木県経済同友会ゴルフ大会を開催した。当日は晴天で、30℃を超える猛暑となる中、32名が参加し、新ペリア方式により競技を行った。



### 【競技結果】

競技結果は以下の通り。

優 勝：大磯 崇雄 氏 (損害保険ジャパン日本興亜(株))

準優勝：五月女善重 氏 (五月女総合プロダクト(株))

3 位：内藤 靖 氏 (株)テラクリエーション)

損害保険ジャパン日本興亜(株)の大磯氏が見事優勝の栄冠に輝いた。準優勝は五月女総合プロダクト(株)の五月女氏、3位は(株)テラクリエーションの内藤氏となった。

なお、ベスグロ賞は(株)古口工業の古口氏で、スコア77 (OUT39、IN38) であった。



### 【表彰式・懇親パーティー】

競技終了後、クラブハウス内にて表彰式及び懇親パーティーが開催された。



優勝の大磯氏には小林筆頭代表理事から優勝カップ、賞品が授与された。その後、大磯氏から優勝者スピーチをいただいた。

今回は猛暑の中でのラウンドのため、クラブハウスに戻る頃は、顔が真っ赤になっていた参加者が多く見受けられたが、表彰式・懇親パーティーではリラックスし、楽しまれた様子であった。また、ゴルフ場より協賛品をいただき、ジャンケン大会を行い、大いに盛り上がった。

日常の激務を忘れ、明日への活力を養う事の出来た一日となった。



# 会 務 報 告

2019年4月～2019年6月（敬称略）

内 容 ・ 日 時	議 事 ・ 報 告 等	出席者
第1回企画運営委員会 平成31年4月19日 15:00～17:00	検討事項 (1) 令和元年度企画運営委員会活動計画（案）について (2) 令和元年度第2回ゴルフ大会（案）について 報告事項 (1) 第32回全国経済同友会セミナーについて (2) 令和元年度サマーセミナーについて (3) 未来経営研究会新事業について (4) 事務室の取得について	21名
第1回幹事会 令和元年5月16日(木) 16:00～16:45	検討事項 (1) 平成29・30年度各委員会・研究会の活動報告書（案）について (2) 平成30年度事業報告（案）について (3) 平成30年度決算（案）について	37名
第1回理事会 令和元年5月16日(木) 16:45～17:30	検討事項 (1) 平成30年度事業報告（案）について (2) 平成30年度決算（案）について (3) 財産の取得（案）について (4) 幹事の選任（案）について (5) 令和元年度総会の開催（案）について (6) 会員の新規入会（案）について 報告事項 (1) 平成30年度下期 理事の業務執行状況について (2) 会員の異動について	17名
第2回理事会 令和元年6月21日(金) 15:45～15:55	検討事項 (1) 筆頭代表理事、代表理事及び専務理事の選定について (2) 名誉理事の委嘱について (3) 名誉会員の委嘱について (4) 特別功労者について	14名
第1回行財政改革委員会 令和元年6月26日(水) 13:30～15:00	議 事 (1) 令和元年度活動計画（案）について (2) 広域連携（県と市町村等）のあり方について（講話） 講師：光永 祐子 氏〔総務省市町村課 課長補佐〕 (3) 質疑応答・その他	16名

## 中学校・高等学校への講師派遣事業

(実施順、敬称略)

○足利市立愛宕台中学校（3年生）		聴講者数
5月25日(土)	(株)アイディ 代表取締役 田村 晃	58名
○那須塩原市立日新中学校（3年生）		聴講者数
5月28日(火)	(株)関東農産 代表取締役 郡司 祐一	102名
○栃木県立矢板東高等学校定時制（全校生）		聴講者数
6月6日(木)	日本放送協会宇都宮放送局 局長 村木 優実子	50名
○栃木県高等学校定時制通信制教頭会		聴講者数
6月28日(金)	東京海上日動火災保険(株) 理事 栃木支店長 西村 拓浩	60名
○那須塩原市立日新中学校（2年生）		聴講者数
7月3日(水)	(株)オニックスジャパン 代表取締役 大西 盛明	89名
○栃木県立大田原東高等学校（全校生）		聴講者数
7月16日(火)	(株)開倫塾 代表取締役社長 林 明夫	70名

## ボランティアプロフェッサー講師派遣事業

(実施順、敬称略)

○宇都宮大学 大学院工学研究科〔講座名：経営情報工学特論〕		聴講者数
5月20日(月)	東京ガス(株)宇都宮支社 支社長 吉田 範行	150名
6月3日(月)	関東自動車(株) 取締役専務執行役員 吉田 元	140名
6月10日(月)	トヨタウッドユーホーム(株) 代表取締役社長 中津 正修	101名
6月17日(月)	(株)開倫塾 代表取締役社長 林 明夫	92名
○白鷗大学 経営学部〔講座名：現代企業行動論〕		聴講者数
5月20日(月)	トヨタウッドユーホーム(株) 代表取締役社長 中津 正修	126名
7月8日(月)	日産自動車(株) 理事 栃木工場長 中村 卓也	123名

## 新しい仲間たち

### ●新入会員（敬称略・氏名50音順）

・令和元年5月16日 令和元年度第1回理事会での新規入会者

#### 1. 会員

	<p>いし かわ ひで あき 石川英章 (株)リクルート 北関東マーケティング 栃木支社長 紹介者 中津 正修</p>		<p>はま なか やす ひろ 濱中康宏 (株)エフ・イー・エス 代表取締役社長 紹介者 戸塚正一郎</p>
---	---	---	---

### ●会員の交代（敬称略・氏名50音順）※令和元年7月末日までの交代

	<p>あずま じゅん じ 東 順治 日本通運(株) 宇都宮支店 支店長 変更前 小泉 芳久</p>		<p>あらい たか のり 新井孝則 栃木トヨタ自動車(株) 代表取締役社長 変更前 新井 将能</p>
	<p>いま い けん じ 今井健次 パナソニック ホームズ北関東(株) 代表取締役社長 変更前 櫻井 順</p>		<p>か がわ まさ し 香川真史 (株)エフエム栃木 代表取締役社長 変更前 関根 房三</p>
	<p>もり とおる 守 徹 (株)東武宇都宮百貨店 代表取締役社長 変更前 佐瀬 敦</p>		<p>よこ くら しょう いち 横倉正一 (株)横倉本店 代表取締役社長 変更前 北村 光弘</p>

### ●特別会員の交代（敬称略・氏名50音順）※令和元年7月末日までの交代

	<p>さい とう こう ぞう 齊藤高藏 栃木県中小企業団体中央会 会長 変更前 渡邊 秀夫</p>		<p>ちば てつや ちばてつや 文星芸術大学 学長 変更前 上野 憲示</p>
	<p>なか やま み よし 中山御由 宇都宮文星短期大学 学長 変更前 上野 孝子</p>		<p>ます ぶち しょう じ 増 渕 正二 (一社) 栃木県商工会議所連合会 会長 変更前 大川 吉弘</p>

※令和元年7月末日現在の会員数は271名、準会員数は13名です。

引続き会員増強にご協力願います。

## ●事務局の異動

### 退任者

	<p>退任 はん だ てつ お 半 田 徹 郎</p> <p>任 期：2016年4月～2019年6月 派遣元 栃木銀行</p>	<p>3年3ヶ月、会員の皆様方と一緒に数多くの貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。各委員会活動、全国経済同友会セミナー栃木大会、30周年記念事業等を通じての様々な経験は、何にも変え難い大きな財産となりました。今後、当会での経験を活かし、微力ながら栃木県経済の発展に貢献していきたいと思ひます。会員の皆様の益々の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。大変お世話になりました。</p>
---	---	--

### 新任者

	<p>新任 すず き しん ご 鈴 木 真 悟</p> <p>任 期：2019年7月～2021年3月 派遣元：足利銀行</p>	<p>同友会の事務局職員として、業務に携われる機会を頂き大変光栄に感じております。社会問題委員会と未来経営研究会を担当させて頂きます。一日も早く会員の皆様と組織に寄与できるよう努力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。</p>
---	---	---